

科目名	柔道整復術適応の臨床的判定(医用画像の理解を含む)					
分野	専門分野	担当教員	深谷 高治			
開講時期	2学年 1学期	単位数	講義	実技	演習	実習
時間数	30				2	
科目の概要	画像読影法には単純X線、超音波、CT、MRIなどがある。画像所見の読影は、柔道整復師が接骨院で施術を行うことや医療施設と連携を図るには必須である。超音波診断装置は、整形外科領域で一般的に使われているが、柔道整復師も使用できる機器である。柔道整復師が関与する外傷の判断、経過観察、治療方法を画像の読影と合わせて学ぶ。					
学習の到達目標	国家試験の出題の対象となる内容を習得する。					
成績評価の方法と基準	出席基準を満たした者については、試験結果、授業態度を考慮し総合的に評価する。					
使用テキスト	教科書(施術の適応と医用画像の理解、柔道整復学・理論編)					
参考文献	なし					
実務経験を有する者	○					
講義計画	講義内容					
1	施術の適応判断の必要性、適応の判断、柔道整復術非適応が疑われる症状と所見の理解					
2	レントゲン撮影法とレントゲン所見の読影法の理解①					
3	レントゲン撮影法とレントゲン所見の読影法の理解②					
4	超音波診断装置の描写方法と超音波所見の理解①					
5	超音波診断装置の描写方法と超音波所見の理解②					
6	鎖骨の脱臼の病態・治療法・予後に対する理解					
7	肩関節脱臼(反復性脱臼)の病態・治療法・予後に対する理解①					
8	肩関節脱臼(反復性脱臼)の病態・治療法・予後に対する理解②					
9	肘関節後方脱臼の病態・治療法・予後に対する理解					
10	肘関節前方脱臼・肘内障の病態・治療法・予後に対する理解					
11	手関節脱臼・月状骨脱臼の病態・治療法・予後に対する理解					
12	CM関節脱臼・DIP関節脱臼の病態・治療法・予後に対する理解					
13	上肢脱臼の総復習①					
14	上肢脱臼の総復習②					
15	総合評価(まとめ)					

(2024年度)